

問1 鎌倉時代に制定された、武士社会の決まりごとや裁判の基準を何という？

1. 寺院の戒律                      2. 朝廷の古例                      3. 公家の教養                      4. 武士社会の慣習

問2 マルコ・ポーロが見聞をまとめて出版し、日本を「黄金の国ジパング」として紹介したことで知られる著書を何という？

1. 平家物語                      2. 方丈記                      3. 世界の記述（東方見聞録）                      4. 源氏物語

問3 鎌倉時代、執権の北条泰時が制定した法律を何という？

1. 1192                      2. 1185                      3. 1333                      4. 1232

問4 1281年にモンゴル帝国が二度目に日本へ襲来した戦いを何という？

1. 承久の乱                      2. 弘安の役                      3. 文永の役                      4. 元寇

問5 鎌倉時代末期に、御家人の困窮や荘園制度の混乱の中で、幕府に従わず力で支配しようとした武士たちを何という？

1. 守護                      2. 悪党                      3. 御家人                      4. 地頭

問6 鎌倉時代後半、分割相続によって領地が細分化し、経済的に苦しくなった状態を何という？

1. 分断                      2. 困窮                      3. 繁栄                      4. 衰退

問7 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？

1. 引付衆                      2. 守護代                      3. 検地帳                      4. 石築地

問8 鎌倉幕府の将軍と主従関係を結び、御恩として所領を安堵された武士のことを何という？

1. 御家人                      2. 御内人                      3. 家人                      4. 奉公人

問9 琵琶法師により、当時の人々に語り伝えられた鎌倉時代の軍記物語を何という？

1. 枕草子                      2. 源氏物語                      3. 方丈記                      4. 平家物語

問10 『枕草子』や『方丈記』と並び、日本文学における重要な3つの随筆をまとめて何という？

1. 五街道                      2. 三大随筆                      3. 三都                      4. 五畿七道

問11 イタリア出身の旅行家で、フビライ・ハンに仕え、日本を『黄金の国ジパング』としてヨーロッパに紹介したのは誰？

1. イブン・バトゥータ                      2. マルコ・ポーロ                      3. マテオ・リッチ                      4. ザビエル

問12 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？

1. 日蓮                      2. 道元                      3. 親鸞                      4. 栄西

問13 法然が庶民に信仰を広めた、死後の安らかな世界を何という？

1. 解脱                      2. 涅槃                      3. 浄土                      4. 極楽

問14 東大寺南大門に安置されている、力強い表現が特徴の金剛力士像を制作した仏師は誰？

1. 湛慶                      2. 定朝                      3. 快慶                      4. 運慶

問15 鎌倉幕府において、将軍と主従関係を結び、軍事や行政の実務を担った武士を何という？

1. 公家                      2. 御家人                      3. 守護                      4. 地頭

問16 13世紀にモンゴル帝国を築き、後に日本へ侵攻を企てた人物は誰？

1. チンギス・ハン                      2. モンケ                      3. オゴデイ                      4. フビライ

## 答え合わせ・解説

問1	答え 4 武士社会の慣習	それまで武士の間で行われてきた「武士社会の慣習」を基に、裁判の基準が文章化されました。それ以前の京都の朝廷が用いていた律令は、貴族社会には適していても、土地に執着する武士の日常的な紛争を解決するには複雑すぎました。そのため、公平で分かりやすいルールが求められたのです。
問2	答え 3 世界の記述 (東方見聞録)	帰国後に獄中で語った内容が記録され、出版されたのが『世界の記述 (東方見聞録)』です。この書物には、当時の中国の繁栄や日本の富について書かれており、ヨーロッパの人々にアジアへの関心を抱かせました。
問3	答え 4 1232	この法律は、それまでの習慣を基礎とし、武士社会の道理に基づいて裁判を行うための基準を明確にしたものです。これにより、幕府による全国的な裁判の公平性が保たれるようになりました。
問4	答え 2 弘安の役	1281年、元軍は再び大軍を率いて九州へ攻め寄せました。これが弘安の役です。幕府は事前に築いていた防壁や備えによって防戦し、元軍の上陸を阻みました。また、暴風雨により元軍の船団が壊滅的な被害を受けたことで、幕府軍の勝利が確定しました。
問5	答え 2 悪党	「悪党」とは、当時の法や幕府の秩序に従わず、荘園の年貢を奪うなど実力行使を行う武士たちを指します。幕府は彼らを「悪党」と呼んで厳しく取り締まろうとしましたが、社会が不安定化する中では抑えきれませんでした。
問6	答え 2 困窮	限られた土地からの収穫だけでは、幕府への奉公や軍役の準備、生活費を賄うことが困難になり、多くの御家人が借金をして苦しい生活を送るようになりました。
問7	答え 4 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地 (元寇防壁) を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来 (弘安の役) で大きな効果を発揮しました。
問8	答え 1 御家人	御家人は、将軍から領地の所有権を認められる「御恩」を受ける代わりに、京都や鎌倉の警備、合戦時の軍役といった「奉公」の義務を負いました。将軍と御家人の結びつきは「御恩と奉公」という主従関係で成り立っており、これが鎌倉幕府を支える強力なシステムでした。
問9	答え 4 平家物語	『平家物語』は、平氏の滅亡までの過程を力強く描き出した文学作品です。この物語は書物として読まれるだけでなく、琵琶法師と呼ばれる人々が全国を巡り、琵琶を奏でながら口頭で語り伝えることで広く庶民から武士まで浸透しました。その語りは「平曲」とも呼ばれ、独特の節回りで当時の人々の心を打ちました。
問10	答え 2 三大随筆	『枕草子』 (清少納言)、『方丈記』 (鴨長明)、『徒然草』 (吉田兼好) の3つを総称して「三大随筆」と呼びます。それぞれ平安時代中期、鎌倉時代初期、鎌倉時代末期に執筆されました。
問11	答え 2 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはベネチアの商人・旅行家で、元のフビライ・ハンに長く仕えました。帰国後に執筆した『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国ジパング」として紹介しました。これを見たヨーロッパの人々は、海路によるアジアへの関心を高めることとなりました。
問12	答え 4 栄西	栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。
問13	答え 3 浄土	浄土とは、阿弥陀仏が治める、迷いや苦しみから解放された極楽世界のことを指します。法然は、この浄土へ生まれ変わることを願い、ひたすら念仏を唱えることが重要だと説きました。この信仰は、現世の不平等に苦しむ人々にとって、唯一の救いとしての意義を持っていました。
問14	答え 4 運慶	運慶は、それまでの仏像と異なり、筋肉の動きや表情の細部までリアルに表現する彫刻手法を確立しました。快慶らとともに制作した東大寺南大門の金剛力士像は、その写実的な表現の頂点といえます。この様式は、当時の人々に強い精神的なインパクトを与えました。
問15	答え 2 御家人	御家人は、将軍から領地を安堵される「御恩」を受ける代わりに、戦時の軍役や京都・鎌倉の警備といった「奉公」を義務付けられました。彼らは幕府の制度を支える重要な存在であり、北条氏などの有力御家人は幕府の政治運営において中核を担いました。
問16	答え 4 フビライ	第5代皇帝フビライ・ハーンは国号を「元」と改め、大都 (現在の北京) を拠点に東アジアの覇権を握ろうとしました。彼は日本に対しても外交使節を派遣して服属を求めましたが、幕府がこれを拒否したため、1274年の文永の役と1281年の弘安の役という2度の遠征軍を日本に送りました。